

令和3年度授業改善推進プラン【音楽科】

《各学年の特徴》

- 1年 意欲的に楽しく歌ったり演奏したりしている。
- 2年 様々な音楽に興味・関心をもち、歌唱や楽器演奏・リズム打ちを通して音楽表現を楽しんでいる。
- 3年 歌唱においては、歌詞のイメージを歌に表現しようとする工夫が見られるようになってきている。リコーダーの音色に関心をもち、曲想に合わせた音を出そうとする姿が多く見られる。
- 4年 新しい知識や学習にとっても意欲的で、楽しみながら取り組んでいる。表現力が豊かで、曲想を感じ取り、ふさわしい表現を見つけて演奏できている。
- 5年 意欲的に知識、技能を習得し、学びを深め広げようとする姿が、活動全体を通して見られる。
- 6年 基礎的な表現を活かし、演奏できている。表現や鑑賞の傾聴力も高く、知識を生かし、さらなる気づきを求める姿が見られる。

《課題となる育てたい力》

- 低学年 音楽への興味・関心をもちとともに、表現への意欲を一層高めていく力。
自分の歌声や発声を意識しながら音楽表現する力。
音色や旋律に気を付けて演奏する技能。
- 中学年 楽曲表現につながる基本的技能。
傾聴力を高め、鑑賞や音楽づくりの表現を工夫する力。
- 高学年 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりできる表現力。
経験や知識を生かし、表現力を高める力。

☆授業改善の具体策☆

《授業全体に関わる事項》

- ・担任、教科担任との連携
- ・学習発表会、連合音楽会、音楽朝会等の行事での発表
- ・リコーダー講習、オーケストラ鑑賞教室など外部人材の活用
- ・貫井囃子など教科横断的学習の促進
- ・音楽室、音楽準備室、器楽室、低学年楽器室（生活科室）の整備

《知識・技能》

- 低学年 リズム遊び・歌・鍵盤ハーモニカの演奏を楽しみ、音楽活動の場を広げさせる。鍵盤ハーモニカの演奏を通して、タンギングや指使い等の練習を継続的に行わせる。ICT機器を活用し、動画などから繰り返し挑戦や確かめを行い、正しく習得する。
- 中学年 歌唱・器楽・音楽づくりに取り組み、楽曲の中で必要な音楽記号などの知識も同時に習得させる。音程、リズム、運指、タンギング、息使い、楽器の操作、強弱などを正確に演奏でき、また、組み合わせた音楽をつくれるようにさせる。
- 高学年 臨時記号や調号、付点や16分音符のある楽曲に組み込み、正確な知識と技能を同時に習得してさせる。歌詞や音のつながり、高低からフレーズを読み、感じ取り演奏し、また、フレーズ感を生かして音楽づくりができるようにさせる。

《思考・判断・表現》

- 低学年 歌詞の表す情景や気持ちを想像する活動を取り入れ、「思い」をもって表現する場の設定をする。児童にとって魅力があり、身体反応の快さを感じ取りやすい楽曲を選択する。歌や演奏を聴いて、音楽の楽しさに気付いたり、楽器の音色の違いに気付いたりするために、友達と感想を発表し合う活動を取り入れる。
- 中・高学年 曲想にふさわしい表現を楽譜、音源、映像などから感じ取り、思いや意図をもった工夫した表現を見つけさせる。児童の感性を豊かにするために、想像力を膨らませて音楽を聴くように働きかける。楽曲の楽しさや工夫、曲の構成に気付いたり、疑問や予想をもちながら楽曲を聴いたり、物語や場面を想像したり、作曲者の意図をくみとりながら楽曲の良さを感じ取り、言葉で表せるようにさせる。Chromebookを使用して、疑問を探求し、共有することで活動を深める。

《主体的に学習に取り組む態度》

- 低学年 一人一人の感じ方を大事にするとともに、自分なりの表現をする場の設定をして、音楽活動への意欲を高める。身体表現・リズム表現・わらべうたや数え歌を多く取り入れて楽しく活動させる。
- 中・高学年 意欲や楽しみをもって音楽活動に取り組む。学習したことを振り返ることで、習得した技術に喜びを感じ取りながら、次回への興味をもったり、改善点を見つけられたりするようにさせる。楽曲の構成や曲想から自らの経験や生活と結び付けることで、学びを深めさせる。また、全員で協同演奏する美しさや壮大さを感じ取らせ、集団による一体感を感じる活動を行わせる。Chromebookを使用して、共有を行うことで視野を広げ、積み重ねることで定着を行う。